

「財布に寄すチヨ一サーの嘆きの唄」(訳)

他の誰のためでもなく 私の財布よ* あなたのために
私は嘆いております あなたこそ我がいとしい方ですから
あなたが軽くなってしまわれしことは私にはとても哀しいこと
確かにあなたが私を重く見て下さらなければ*
むしろ棺台の上に横たわりたい 5
だから私はあなたの御慈悲にすがります
どうか再び重くなって下さい さもなければ私は死なねばなりません

夜になる前 この昼間に
あなたの至福の音*を聞かせて下さい
輝く太陽のようなあなたの色*を見せて下さい 10
その黄金の色は比類なきもの
あなたは我が命 あなたは我が心の舵
慰めと良き友の女王*
どうか再び重くなって下さい さもなければ私は死なねばなりません

財布よ 私にとって命の光であり 15
この世に降りた救い主よ
あなたが私の宝物でなくなろうとするのですから
あなたの御力で私をこの町から救い出して下さい*
托鉢修道士と同じくらいお金に乏しい私なのです*
どうか私に好意を掛けて下さい 20
どうか再び重くなって下さい さもなければ私は死なねばなりません

結 語

ブルータスのアルビオンを征服されし御方*
血筋と自由な選択によって真の王となられし陛下に この唄を捧げます
あらゆる我らが苦しみを正すことの出来る御方
私の嘆願にどうか御心を御配り下さいますように

25

<作品：“The Complaint of Chaucer to his Purse”>
<テキスト：Larry D. Benson(ed.), *The Riverside Chaucer*, 3rd ed.(Oxford: Oxford Univ. Press, 1988)>

注

1行 私の恋人をも意味する。

3-4行 “light” と “hevi” は各々重層的な意味を付与されている。“light” *M. E. D.* adj. (1) 4(a) pure, adj. (2) 1a. (a) light in weight ; 7. (a) cheerful, merry; 8. (a) foolish; 8. (b) fickle; 8. (c) unchaste. “hevi” *M. E. D.* adj. 1a. (a) weighty; 1b. abundant; of a purse: laden with coin; 2c. (a) serious; 4. (a) sad; 5a. (a) troubled.

9行 恋人の声をも意味する。

10行 金貨の色にかけた恋人の肌の色をも意味する。

13行 “Quene of comfort” とは聖母マリアのエピセツト (cf. “ABC” 77)。

18行 チョーサーのロンドンよりどこか物価のより安い所に移り住みたいという願いを現わしていると考えられている箇所。

19行 托鉢修道士の剃髪と同様にお金に乏しいこと。ちなみに “shaven” は *O. E. D.* sb. 7 (To strip clear of money) の意味においてここが初出例 (c. 1399)。

22行 “conquerour” とは Henry IV のこと。“Brutus” は Britain (Albion) を初めて征服した Aeneas の子孫のこと。

この詩の envoy はおそらく1399年9月30日 (Henry IV の即位の日) と同年10月3日 (チョーサーが Richard II より年金10ポンド及び40マルクの追加年金下賜を王より許された日) もしくはチョーサーの死去までの間に書かれた。この詩自体 (11の写本中6つの写本において envoy を欠く) は envoy 以前におそらく書かれ、もともと Richard II (1377-99年在位) にあてたものと考えられる。従ってこの詩はチョーサーの手に

なる最晩年の作であろう。

この詩は当時よくみられた“begging poems”（無心の唄）の1つであり、例えば Machaut はフランスの John II に、Deschamps は Charles VI に向けて同様な詩を書いている。しかし恋人に対する愛の呼び掛けの言葉を使って“begging poems”というお金を無心する戯唄をうたうところが、他に見られないチャウサーの独自で面白いところである。